

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

夏休み、わたしは一人で、山のふもとにあるおばあちゃんの家にとまりに来た。
着いてすぐに、わたしはがっかりした。近くにはお店が一けんもなく、テレビもあまり見られない。
ゲーム機を持ってくるのもわすれてしまった。

「つまらないなあ。早く帰りたい。」

えん側でねころんでいると、おばあちゃんが麦茶を持ってきてくれた。

「夜になったら、いいものを見せてあげるよ。」

夕ご飯のあと、おばあちゃんは家の明かりを全部消した。まっ暗になると、外から、りいりい、ころろと、たくさんのお虫の音が聞こえてきた。うるさいなあ、とわたしは思った。

「ほら、上を見てごらん。」

庭に出て空を見上げたわたしは、息をのんだ。空いっぱい、星がこぼれそうなほど光っていた。

家の近くで見る空とは、まるでちがう。

「星って、こんなにたくさんあったんだ。」

「ずっとあったんだよ。町の明かりで見えなかっただけさ。」

おばあちゃんとならんで、わたしは長い間、空を見上げていた。さっきまではうるさいだけだった虫の声も、今は星の光に合わせて歌っているように聞こえた。

ねる前に、わたしはおばあちゃんに言った。

「あしたの夜も、いっしょに見ようね。」

(この問題のための書き下ろし)

問一 おばあちゃんは、わたしにこれまで星が見えなかったわけを何だと言っていますか。本文から十字まで書きぬきましょう。

問二 わたしが、着いてすぐにながかりしたのはなぜですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア おばあちゃんが、家にいなかったから。

イ お店もなく、テレビやゲームで遊ぶこともできなかったから。

ウ 虫の音がうるさくて、ねむれなかったから。

問三 「今は星の光に合わせて歌っているように聞こえた」とありますが、虫の聞こえ方が変わったのはなぜですか。四十五字まで書きましょう。

問四 この物語で、わたしの気持ちはどのように変わりましたか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア はじめから楽しみにしていたが、星が少なくてがっかりした。

イ おばあちゃんの家がこわくなり、早く帰りたくなった。

ウ はじめはつまらないと思っていたが、いなかの夜のよさに気づき、また見たいと思うようになった。

--